3分くらいで読める遊びの話

応答的な関わりで見守る

共鳴するとは？

コマ入れ

取り出すのも片付けるのも簡単な工夫が、至る所に！

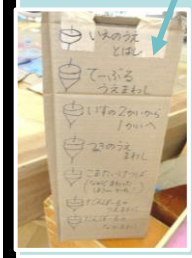
コマいくよー（うまくいくかなあ）

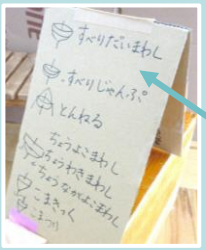
いいよー よくねらってね！

５歳児２月「コマ遊び」

すべりだいまわし

写真を一部割愛して掲載しています。





「コマのわざ！」と、子供たち。保育者がそれをメモすると、後日「コマ回しショー」へ発展した。コマの楽しさを次々更新していく。

「コマ遊び」と聞いて、先生方はどんな展開を想像できますか？12月のクリスマス、サンタから「コマ」のプレゼントがありました。年明けすぐ、子供たちはコマ回しに夢中になります。紐の巻き方や引き方、少しずつこつを掴む子たち。ある程度回せるようになると、子供たちは、遊びの状況を変化させていきます。前号で触れた、まさに「コマと私」の間に新しい意味（環境の物理的な面白さ、コマとの関わり方等）を創り出し、展開していく子供たちです。そして、言うまでもなく、この展開の過程には、保育者がいました。どんどん広がる一人一人の思いに、そっと寄り添い、確かに見守っている保育者です。さて、幼小通信読者の先生方は「見守る」と聞いて、どんな援助をイメージするでしょうか。その子をじっと見ていること、それだけでしょうか？

①コマを回せるようになると、自然に集まり、新たな目的を共有し始めた子供たち。「机の目印めがけて回そう」「落ちたら負けだよ」

①

②

②コマが落ちないようにしたかったＡ児。段ボールで橋を架けて「コマを渡す」ことが面白くなる。

A児

③試し、考え、挑戦していくことがどんどん面白くなっていく子供たち。

さっきうまく回ったよ！

ガムテ貼った方がうまく回るかも！

③

④どんどん湧く思い、イメージ、やりたいことに共鳴・応答しながら丁寧に見守る保育者がいた。

④

トンネル回しいくよ！

⑤場をどんどん広げるB児。

うほっ！ここでも回せたよ！（笑）

B児

このコースはもっと難しいぞ！

⑤

⑥コマの特性×面白さの追究

⑥

保育者のここがすごい ～見守る援助の再考～

幼児教育に限ったことではありませんが、とりわけ小さな子供と生活する以上、心身の安全性の確保は最優先であり、見守りの体制・援助は、保育の基本です。

しかし、一人一人の発達や内面の動き、遊びの状況へ向けられた「応答的な見守り」ではなく、**単純化した「見守っているだけ」の振る舞い**になっていたら、それは、その子にとってあまりありがたくない関わりでしょう。例えば、「**固定的な各種コーナー**」で遊ばせる・**玩具中心**の環境で遊ばせる・園庭遊具や教師が設定した**限定的な場や道具**のみで遊ばせる・**一年中同じ環境**で遊ばせる等の保育」では、保育者は安全に落ち着いて遊ぶことを中心に見守ります。しかし、その環境では、興味の広がりから新たな物を持ち込むＡ児や、思考の広がりから場を再構成するＢ児のような自己発揮の姿は、あまり見られなくなってしまうでしょう。その子らしい面白さの追究や思いもよらない展開、強いては**遊びの充実が起こりにくくなってしまう**のです。

コマ遊びは、このような展開が望ましい、ということではありません。一方、時間や道具を与え安全に遊んでいればよいということでもないでしょう。少なくとも、この遊びを見守っていた保育者が、**子供個々の思いを丁寧に**読み取り（その子は何を楽しんでいるのか）、時にじっと見守り、保育者として願いを膨らませ、時に道具や場を提案し、時に知恵を出し合い、一緒に面白がったり驚いたりしながら、文字通り「子供たちの今に寄り添った」のは、間違いありません。その結果、このような遊びになった、というだけなのかもしれません。すごいです。

ちょこっとメモ

教師には「**共鳴**する」という大切な役割があります。子供と同じように全身で動いてみたり、同じ目線でものを見つめたり、共に同じことに向かってみたりすることでその子の心の動きを理解できた経験、先生方にもきっとあると思います。

子供の心の動きに**応答**する教師の**柔軟な関わり**は、もとより、子供の心の動きをまるごと感じ取ろうとする教師としての姿勢の中で、生まれてくるものです。

アンケートご協力のお願い
右の２次元コードを読み取るかクリックで回答をお願いします　ココです。

発行元お問合せ先
山形県教育局義務教育課
☎023-630-3416　kuraokat@pref.yamagata.jp
※１：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用